

同意書

【胃がん検診の目的と方法】

胃がん検診は、症状がない時期にできるだけ早く胃がんを見つけ、早く治療する目的で行われています。

その方法には、バリウムを用いる方法(胃部X線検査)と内視鏡を用いる方法(胃内視鏡検査)があり、いずれもその効果が証明されています。また、両者の方法には良いところと悪いところがあります。

【胃内視鏡検査の方法】

口(もしくは鼻)から胃内視鏡を挿入し、食道・胃・十二指腸を内腔から観察し、病気を探します。異常がある場合には、病変の一部をつまみ(生検)、細胞の検査を行うことがあります。また、色素を散布して、病変を見やすくすることがあります。

なお、**生検が行われた場合は、生検については保険診療として別途請求があります。**また、**生検により粘膜に傷ができますので、検査後当日の食事はやわらかい消化の良いものを食べてください。過激な運動、長湯、旅行なども避けてください。**

【偶発症(検査によってまれに起こる不都合な症状)】

偶発症が発生する頻度は、胃がん検診(胃内視鏡検査)では10万件に183.8件と調査により報告されています。この中には鼻出血などの軽微なものから入院例まで含まれています。現在、胃がん検診(胃内視鏡検査)による死亡事故は報告されていませんが、ごくまれに死亡の可能性もあります。※日本消化器がん検診学会委員会報告 胃がん検診偶発症アンケート引用

胃内視鏡検査では、以下の偶発症が起きる可能性があります。

- (1) 胃内視鏡により粘膜に傷がつくことや、出血、穿孔(穴があくこと)
- (2) 生検による出血、穿孔
- (3) 薬剤によるアレルギー(呼吸困難、血圧低下など)
- (4) 検査前からあった疾患の悪化(症状の出ていなかった疾患も含む)
- (5) 鼻から内視鏡を入れた場合は、鼻痛、鼻出血

なお、当施設では偶発症の防止のために十分な注意を払うとともに、偶発症が発生した場合には最善の対応をいたします。なお、偶発症にかかる治療費は通常の保険診療となります。

【検診結果について】

旭川市の胃内視鏡検査は全てダブルチェック(検査医ではない医師が検査画像を確認すること)を実施しています。がん検診の胃内視鏡検査当日には、胃がんの疑いがないと判定された場合でも、ダブルチェックにより、後日再度の胃内視鏡検査(精密検査)が必要と通知される場合があります。その際には、必ず精密検査を受診してください。

令和 年 月 日 説明医師名(説明者名)

上記の事項について、説明を受け、十分に理解しましたので、その実施に同意いたします。

【生検の実施について】

異常がある場合には、病変の一部をつまみ、細胞の検査を行うことがあります。

生検を実施しても構いませんか。 生検を行うことに同意する。 生検を行うことに同意しない。

令和 年 月 日

受診者署名

受診者代理署名

(続柄)